

## 1月7日「学校に対話を！修復的対話体験会」

### オンライン参加者質問へのお返事

質問1) 公立の小学校・中学校でスクールソーシャルワーカー(SSW)をしています。修復的対話を学校の文化として定着させていく取り組みの中で様々な困難があったかと思えます。SSWが学校において『修復的対話』が必要だと考えた際に、どう戦略的に学校文化への介入を試みたのか？その手段や工夫、当時の想いについて伺いたいです。

#### 【ニーナさんからのお返事】

1) 私が初めて修復的対話サークル／プラクティスに出会ったとき、(民主的)価値観の基本的な基礎と、修復的対話サークルRCがどのような分野、例えば法律学、犯罪学、教育学、社会学、文化人類学、心理学などの上に成り立っているかを知り、これらの分野すべてで共通していると感じられてとても力強く思いました。帰属感や方向感を与えてくれたと思っています。

自分自身でトレーニングを行った後、ミーティングの場で同僚と新しい知識を共有し、全員が基本的な知識を身につけられるようにしました。同僚と理解を深めるには時間がかかりますが、小さな積み重ねが大切だと思います。

その後、新しい学校を始めるにあたり、有名なトレーナーを雇い、全教師、そして後には全アシスタントを対象にしたワークショップを行いました。それ以降は、先生をペアやグループに分けてトレーニングに参加させたり、プロフェッショナル・ディベロップメントの時間に先生全員と生徒メディアエーターやピアメディアエーターと一緒にトレーニングを行ったりするようになりました。

質問2) 大変、興味深いお話をありがとうございました。例えば、スクールカウンセラーの立場から、日本の小学校で修復的対話を取り入れようとする場合、月に1回～2回の勤務と大変少ない時間で、他の個別対応もしなければならない現状があります。そのような

現状で、修復的対話を取り入れようとするのは、とても難しいように感じるのですが、何か、アドバイスがありましたら、ご教示頂けると幸いです。

**【ニーナさんからのお返事】**

2) 学校や職場などで、あらゆるやり取りで、修復的対話が使えると思います。あなたの修復的な考え方は、アクティブリスニングや非暴力コミュニケーションのような、あなたが扱うすべての人や状況に対応するためのツールを提供することになります。

また、修復的対話はそれほど長い時間である必要はなく、10分、15分、20分でよいということをお心に留めておいてください。私は、短いセッションでも、長い間隔でも、非常に価値があると思っています。修復的対話サークル RC の考え方を身につけるには時間がかかるので「ゆっくり」でも心配はありません。参加者に考える時間を与えることができます。

また何か質問があれば、喜んでお答えします。